

人にやさしい器づくり（チーム KDS）

尾形 尚子* 久野 巨央*

1. 目的

平成 13 年度より続く商品開発研究会が、今年度よりチーム KDS(カサマ・デザイン・スピリッツ)という名称で活動。ひとにやさしい食器作りを目的とし、これまでの集大成となる大きな展示会を開催した。一方でデザインと機能性について見直しをすることも目的とした。窯元だけでなく、栄養士、調理師、医療関係者などさまざまな会員によって構成されている活動である。

2. 内容

2.1 全 7 回の研究会

- (1) 試作品の発表・検討からデザイン評価のできるチェックリストが作成可能かを話し合った。
- (2) 福祉や介護医療の現場で食器がどのように役立つかを考えるために老人ホームを訪問して作品を展示および情報収集を行った。
- (3) ユニバーサルデザインのまちづくりとして保健福祉部が推進した「桜の郷」のオープニングイベントに参加し、食器の展示販売を行った。
- (4) 「ユニバーサルデザイン講演会」を茨城県デザインセンターと共催し、会員の意識向上と会員増につながった。
- (5) フランス料理店モン・ラパンによる低カロリーのコース料理のために、軽量で人にやさしい器の試作協力をした。
- (6) すみだ福祉保健センターの摂食障害の研究会メンバーの講演と交流を行った。
- (7) デザイナーに作品を十数点送り、評価を依頼した。

2.2 約 1 ヶ月におよぶギャラリーでの展示販売

売り上げのほか、興味をもつ客層を知り、実際にどういう器が求められているかを聞けるデータ収集にもなった。

3. 結果

- 3.1 試作品 35 種、うち 26 種は商品化した。
- 3.2 新聞報道 6 件（読売・茨城・毎日各紙に 2 件ずつ）
- 3.3 報道後などの問い合わせ 104 件

平成 18 年 1 月にも大きな展示会のオファーがあった。今後も続けて、質の向上を目指しさまざまな展開を考えていく予定である。そのためには、個別に応じた制作と、ユニバーサルデザインとを両立した、文字通り「カサマ・デザイン」を確立することが課題である。



図 1：誤飲防止でカラフルなカップ（当所試作品）



図 2：誤飲防止でシンプルなカップ（会員商品）



図 3：笠間市内ギャラリーでチームの展示発表
（H17.1.2～1.23）